

-----  
[ 成果情報名 ] 冬どり縮み系ハウレンソウの高糖度安定生産技術

[ 要約 ] 縮み系ハウレンソウ品種「寒味」と「ちりめん法蓮草」は、「パンドラ」に比べ、糖度(以下Brix)が高く、ビタミンCも高い。また、これらの品種を10月4半旬以降10月6半旬までに播種し、収穫前7日間の平均気温が7.3 以下となる時期に収穫をすると、目標株重70gでBrix10%~16%を確保できる。

[ キーワード ] Brix, 播種時期, 品種, ハウレンソウ, 縮み系

[ 担当部署 ] 筑後分場・野菜チーム

[ 連絡先 ] 0944-32-1029

[ 対象作物 ] 野菜

[ 専門項目 ] 栽培

[ 成果分類 ] 技術改良  
-----

[ 背景・ねらい ]

近年、食生活が多様化している中、野菜の需要を維持・拡大していくためには、消費者ニーズを先取りした技術開発が必要である。ハウレンソウは健康野菜として消費者に根強い人気があり、最近新しい食材として甘みが強い縮みハウレンソウが注目されている。

そこで、本県の気象条件下において、高糖度のハウレンソウづくりを目指して、適品種の選定やその安定栽培法を検討する。

[ 成果の内容・特徴 ]

1. 「寒味」、「ちりめん法蓮草」は、他の品種よりBrixが高く、ビタミンCも高い傾向にある(表1)。

2. Brixは、収穫日によって変動し、収穫前7日間の平均気温と相関関係がある。特に2~8 の範囲では、高い負の相関がみられる。一部の産地で出荷規準となっているBrix10%以上が収穫可能な時期は、回帰式から、収穫前7日間の平均気温が「寒味」で7.3 以下、「ちりめん法蓮草」で7.7 以下となる時期である(図1,2)。

3. 各品種とも株重と積算温度との間には、播種時期に関係なく、高い相関がある。株重70gを収穫するには、回帰式から、「寒味」で約874、「ちりめん法蓮草」で約880 必要であると推測される(図3)。

4. 高糖度ハウレンソウ生産のための播種時期は、上記2,3の回帰式から、平年の気象条件で推定すると、「寒味」、「ちりめん法蓮草」とも10月3半旬以降10月6半旬までである。この時の収穫時期は12月5半旬から2月5半旬となる(表2)。

5. なお、平成18年のような暖冬年を考慮(図1)すると、播種時期は10月4半旬以降10月6半旬まで、収穫時期は1月1半旬から2月2半旬となる(表2)。

[ 成果の活用面・留意点 ]

1. 本成果は、久留米のアメダスデ・タや筑後分場デ・タをもとに作成したため、他地域で栽培する場合は、気象デ・タを調整する必要がある。

2. 本成果は、露地栽培の結果である。雨よけ栽培の場合は、低温にあてるための換気対策等が必要となる。

3. 「縮み系ハウレンソウ品種」は、葉が縮んでいるため、泥はね等により汚れやすいが、マルチ使用により改善される。

[ 具体的データ ]

表 1 供試品種のBrixとビタミンC(平成 18 年)

供試品種	Brix(%)		ビタミンC (mg/100g)
寒味	11.8 a	10.3 a	107.5 b
ちりめん法蓮草	12.2 a	10.1 a	128.3 a
朝霧	10.2 bc	6.9 c	91.1 c
冬霧7	10.4 b	10.3 a	125.4 a
冬恵7	9.9 bc	8.2 b	94.7 bc
パンドラ	9.3 c	7.1 c	94.0 bc

注)1. 調査日は以下のとおり

Brix とビタミンC: 「パンドラ」は1月15日、「朝霧」・「ちりめん法蓮草」・「寒味」は1月23日、「冬霧7」は1月26日、「冬恵7」は1月29日。

Brix : 「パンドラ」は2月16日、「朝霧」2月21日、他は3月2日

2. abc: 5%水準で有意差があることを示す。

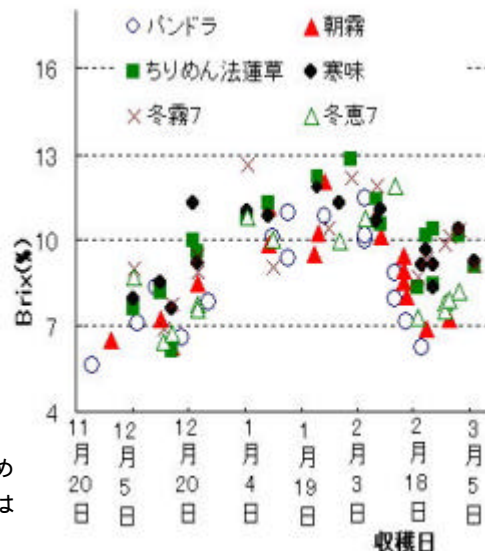


図 1 品種別の収穫日と Brix(平成 18 年)

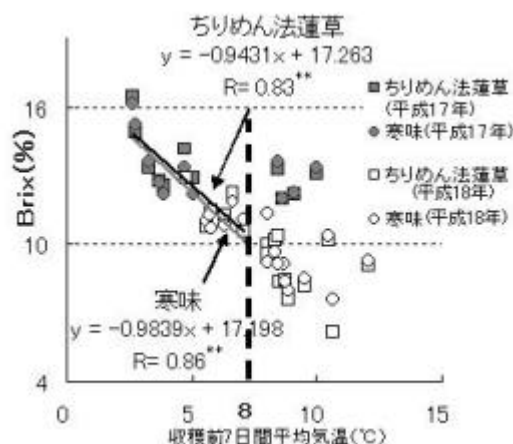


図 2 ‘寒味’ と ‘ちりめん法蓮草’ における収穫前 7 日間平均気温と Brix の関係

注)1. 気温は、平成 17 年が久留米市のアメダスデータ、平成 18 年が筑後分場データ。

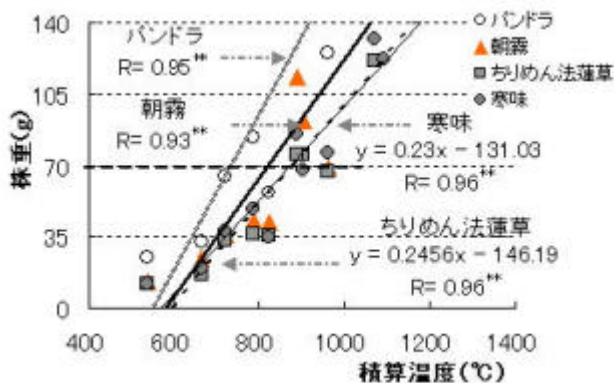


図 3 品種別の株重と積算温度との関係(平成 17 年)

注)1. 積算温度は、久留米市のアメダスデータ。  
2. 播種日は、10月11日、10月20日、11月1日。  
3.\*\*は、1%水準で有意であることを示す。

表 2 高糖度「縮み系ハウレンソウ」作型(予測)

播種時期	収穫時期
10月4半旬(10月3半旬)	1月1半旬(12月5半旬)
10月5半旬	1月5半旬
10月6半旬(10月6半旬)	2月2半旬(2月5半旬)

注)1. 久留米市のアメダスデータの年平均値で推定し、さらに、平成18年のような暖冬年を考慮し、試算。  
2. 括弧内は、久留米市のアメダスデータの年平均値より試算。

[ その他 ]

研究課題名: 縮みハウレンソウの高品質・安定生産技術の確立

予算区分: 経常

研究期間: 平成18年度(平成17~18年度)

研究担当者: 平田祐子、兼子明、水上宏二、森山友幸